

特定非営利活動法人



自己紹介

はやかわ ともひろ

早川 智大

特定非営利活動法人サンカクシャ

2008-2011 愛知県立刈谷高等学校

2012-2016 国際基督教大学 教養学部

2017-2018 株式会社エージェント

2018-2020 株式会社シンカ

2022-現在 特定非営利活動法人サンカクシャ

1992年生まれ。愛知県豊田市出身。

大学卒業後、人材系企業2社を経験。

2019年にうつ病を発症後、約2年半の療養期間を経て

NPO法人サンカクシャにて居場所事業の責任者として活動。

現在はサンカクシャが新規に開業する飲食事業を
担当している。



特定非営利活動法人



活動紹介





若者が安心して生き抜いていける社会をつくる

名称 特定非営利活動法人サンカクシャ

設立 2019年5月24日

所在地 東京都豊島区上池袋4-35-12

代表者 代表理事 荒井佑介

活動内容 親を頼れない若者のための居場所作り、仕事、住まいのサポートを500名（実数）以上の若者に提供

従業員 31名（業務委託含む）

予算規模 2023年度 経常収益87,002,507円
2023年度 経常費用83,416,566円



居場所



仕事



住まい

若者を取り巻く環境

家庭

核家族世帯の比率：54.2%（R3）

単独世帯の比率：38.1%（R3）

核家族、単身世帯92.3%

年間219,170件（R4）

虐待相談対応件数が過去最多

学校

小中学生346,482人（R4）

不登校人数過去最多

職場

非正規雇用の比率

1984年15.9%→2022年36.9%

非正規雇用の割合増加

70万人を超える

若年無業者

家庭も学校も職場も居場所がないと回答する若者1.9%（推計**22**万人）

※令和4年版子供・若者白書子供・若者インデックスボード ver.4.0

15歳から24歳人口は令和5年総務省統計局人口推計を参照

どこにも居場所がない若者1.9%（2022年）R5年15歳から24歳までの人口約1,170万人

若者を支える環境

- ・地域のつながりの希薄化
- ・公的支援、民間支援の不足

親を頼れない若者の特徴



人と関わるのが怖くなる



何かに取り組む意欲がなくなる

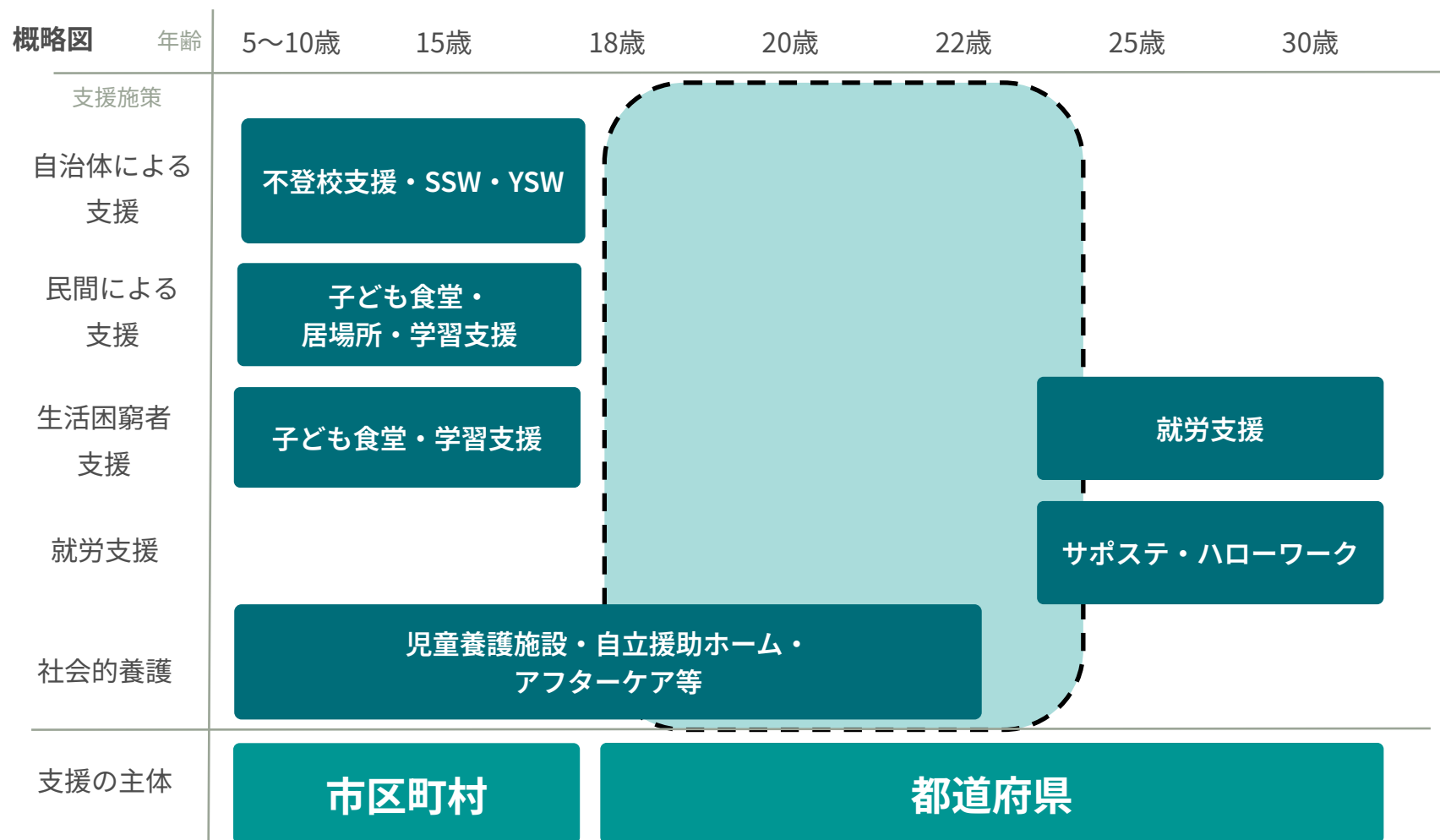
孤立

犯罪の被害・加害

自分自身への諦め

メンタルケア、人間関係の修復等、回復に時間がかかる

若者の公的支援の不足



- 18歳から25歳くらいまでの支援が手薄になっている
- 主体が変わることで支援が途切れてしまう

若者の支援する5つのステップ



＊（参考）刑務所の一人当たり年間収監コスト283万円、一人当たり生活保護年間受給額約156万円

 居場所事業

サリヤホーム

- 
- A photograph of a modern, minimalist interior space. The room features a large wooden dining table with white chairs, a low wooden coffee table, and a large wooden triangular wall sculpture. Two large, white, flower-shaped pendant lights hang from the ceiling. The floor is covered with a patterned rug, and there are several large, round, textured ottomans. A window is visible on the left side of the room.
- ✓ 豊島区上池袋4丁目
 - ✓ 毎週火曜・木曜日 15時～21時まで
 - ✓ 木曜・土曜日 16時～22時まで
 - ✓ 月2回、深夜帯の居場所も解放
 - ✓ イケア・ジャパンより内装の提案と家具の寄贈
 - ✓ 年間のべ2,973名が利用(実数165名)

 居住支援事業

 サンかくハウス



- ✓ シェアハウス3拠点・個室7部屋
- ✓ 合計22部屋提供
- ✓ 稼働率96%。相談が多く、常に満室状態
- ✓ これまでに86名に住まいを提供



- ✓ さまざまな体験をすることで意欲が回復する
- ✓ バンジージャンプ、キャンプ、フットサルなど、さまざまなアクティビティを若者と一緒に体験
- ✓ 車であちこちに出かけることも

 社会サンカク事業

サンカク
ゲスト

- 
- ✓ 年間実施240回、利用者数53人、のべ335人
 - ✓ 企業が「仕事」を寄付
 - ✓ スタッフやボランティアと一緒に伴走

まちの人とつながり、若者の仕事サポートとなる新拠点

サンカクオフィス

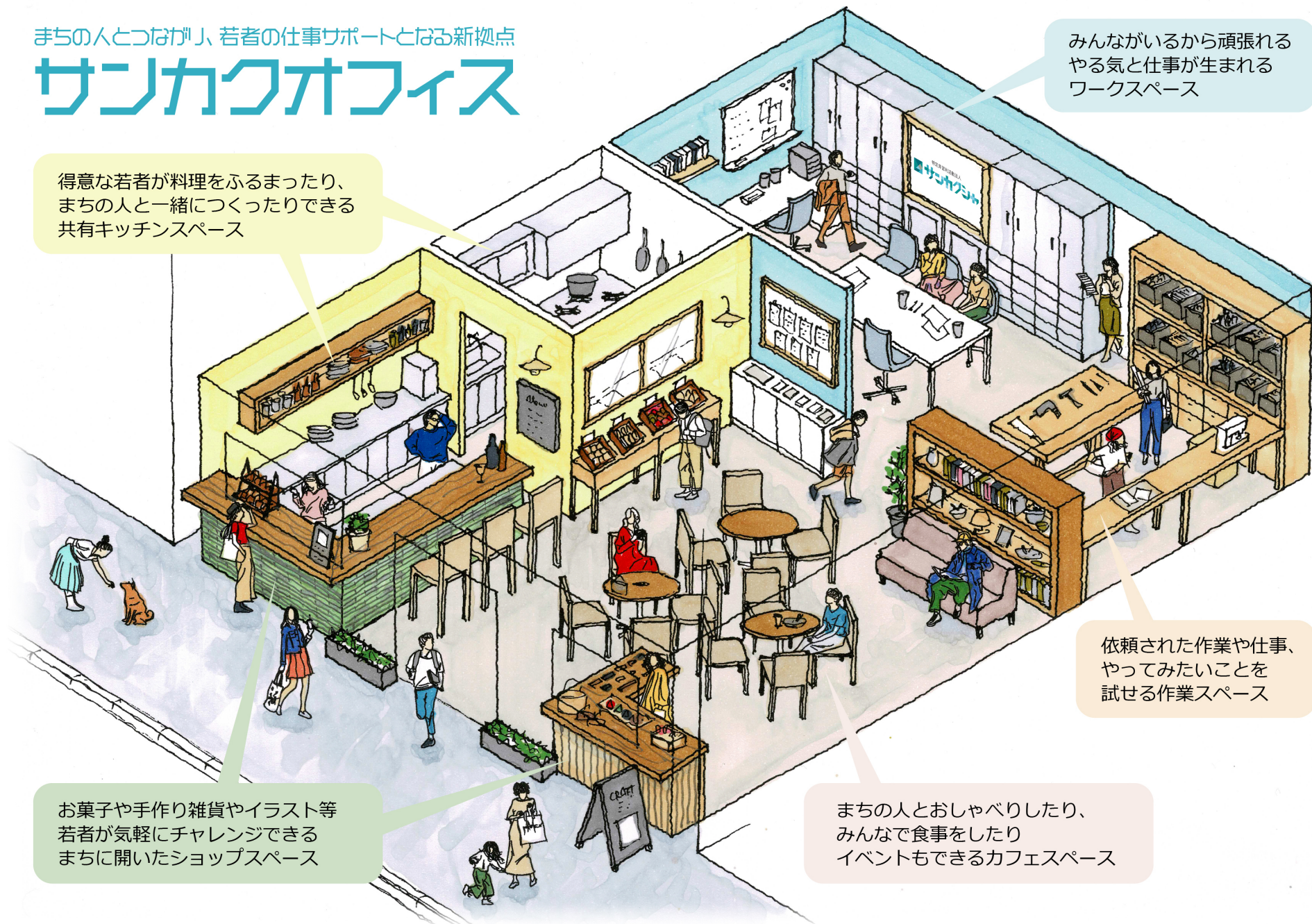
得意な若者が料理をふるまったり、
まちの人と一緒につくったりできる
共有キッチンスペース

みんながいるから頑張れる
やる気と仕事生まれる
ワークスペース

依頼された作業や仕事、
やってみたいことを
試せる作業スペース

お菓子や手作り雑貨やイラスト等
若者が気軽にチャレンジできる
まちに開いたショップスペース

まちの人とおしゃべりしたり、
みんなで食事をしたり
イベントもできるカフェスペース



「居場所」とは何か？





「居場所」とは何か

こども・若者が過ごす**場所、時間、人との関係性全て**が、こども・若者にとっての居場所になり得る。

すなわち居場所とは、物理的な「場」だけでなく、遊びや体験活動、
オンライン空間といった多様な形態をとり得るものである。

こうした多様な場がこどもの居場所になるかどうかは、一義的には、

こども・若者本人が**そこを居場所とを感じるかどうか**によっている。

その意味で、居場所とは主観的側面を含んだ概念である。

したがって、**その場や対象を居場所とを感じるかどうかは、こども・若者本人が決めること**であり、

そこに行くかどうか、どう過ごすか、その場をどのようにしていきたいかなど、

こども・若者が自ら決め、行動する姿勢など、こども・若者の主体性を大切にすることが求められる。



こども家庭庁「こどもの居場所づくりに関する指針」



「居場所」とは何か

類似した概念がいくつもある

サードプレイス

アメリカの都市社会学者Ray Oldenburgが

著書「The Great Good Place」の中で提唱した概念。

自宅（1st）、学校・職場（2nd）とは別に存在する、居心地のいい場所のこと。

コミュニティ

地域社会や共同体、共通の関心事もつ人々の集まりを指す、非常に定義が広く曖昧な概念。共通の目的や価値観、メンバー同士の相互作用といった特徴を持つ。

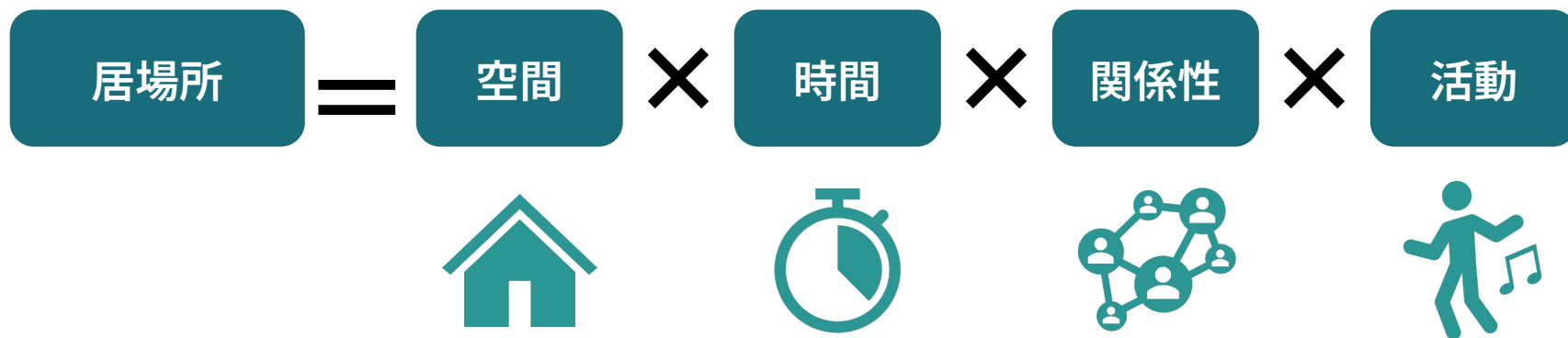
社会的な結びつきや共感によって結ばれた集団（Émile Durkheim）

一定の地域のうえに展開される自生的な共同生活（MacIver, Robert Morrison）



「居場所」とは何か

多種多様であり、幾つものバリエーションがある



人が、その人として生きていくために必要なもの





「居場所」とは何か

極論

家庭と職場または学校が完全な居場所として機能していれば
「居場所」は必要ない

機能していない要因があるから居場所が必要になる



寂しさ、やり甲斐のなさ、人間関係など
孤独や欠乏、それに類似した感情





「居場所」とは何か

(参考) 孤独とは何か

孤独は非歴史的なものでも普遍的なものでもない。

また、**単一の感情**でもない。

孤独は、恐怖、怒り、憤り、悲しみなど

さまざまな反応からなる個人的かつ社会的な感情群である。

『私たちはいつから「孤独」になったのか』 フェイ・バウンド・アルバーティ



人にはそれぞれに、違った孤独の形がある





「居場所」とは何か

なぜ、居場所が必要なのか

居場所は、孤独に対するひとつの処方箋



症状（孤独）の形に合わせた居場所が必要

孤独を和らげ、生きる意欲や活力を得る





「居場所」とは何か

(参考) 休養学という考え方

生理的休養

- 休息型
- 運動型
- 栄養型

精神的休養

- 親交型
- 娯楽型
- 造形・創造型

社会的休養

- 転換型

出典：『休養学』片野秀樹



複合的に休養を組み合わせることで活力を取り戻す





「居場所」とは何か

良い居場所を作るために

入口

繋がるための
来る目的

継続

来続けたいと
思える理由

出口

一つに依存させない
社会との接点

例) サンカクシャの場合

- ・ゲーム ・食事
- ・スポーツ ・相談 など

- ・フランクな大人
- ・来たくなる空間
- ・制約の少なさ

- ・就労支援（事業間連携）
- ・他団体との連携
- ・過ごし方のバリエーションづくり



ご清聴ありがとうございました

